
【片翼の想い】

サトヤレンリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【片翼の想い】

【Nコード】

N0855P

【作者名】

サトヤレンリ

【あらすじ】

僕の片想いはきつといつまでも片恋のまま。

出会ってから3年

自分の想いに気づいて

2年半

あの人と

同じ名字になって半年

片恋は片恋のまま

「忘れ物ない？受験票もった？」

「うん、ちゃんと持ってる」

「ねえ、やっぱり車で送ろうか？」

「平気だよ、心配し過ぎだって」

母はよほど心配なのか、昨日の夜からこの問答を繰り返している。
この落ち着きの無さではどちらが試験を受けに行くのか分からない。

「貴士も一緒だし、大丈夫だって」

「そうね…」

「そんなに心配していると胎教に悪いよ。終わったら電話するから」

「必ず電話してね。お父さんも早く帰るって言ってかたら美味しい
もの作って待ってる」

「無理しないでよ？じゃあ、行ってきます」

推薦で確実の私立と近くの高校を蹴ってまで、県外の学校を受験する
ことに決めたのはこれ以上、両親と一緒に暮らすのは無理だと思
ったから。

「貴士、おはよー」

「おは」

待ち合わせのバス停では幼なじみの貴士が寝不足顔で待っていた。

「なに？徹夜？限できてるよ」

「モンハンやってたら止まなくなってる」

受験日の朝にゲームで徹夜した発言は僕と違って余裕の受験な貴士らしい。

両親とは1日でも早く離れたかったが、自分のわがままな想いで余計な金銭的負担を掛けたくはないと悩んでいた僕に貴士は県外の高校を受験して一緒に住むことを提案してくれた。

高校に合格した後は貴士のお祖父さんが所有しているマンションに2人で住むことになっている。

僕の想いを全て知った上でここまで付き合ってくれている、このどこまでもマイペースな幼なじみにはどんなに感謝しても足りない。

「試験おわったらマンション寄ってかないか？部屋ん中みれるって叔父さんから連絡あったんだけど」

「ごめん、今日は父さんが早く帰るから3人でご飯たべようって。だから早く帰らなきゃなんだ」

「そりゃ、御愁傷様。……オマエ、絶対に合格しろよ」

「……分かってるよ」

差し伸べられた手の温かさと『初めまして』の優しい声。

多分、あの初対面の日に僕はもう恋に落ちていたんだと思う。

日に日に大きくなる母のお腹。

春には15歳も年の離れた弟か妹が産まれる。

幸せな家族の一員を演じられるほどに僕はまだ大人にはなれない。

「まあ、親子でタイプが似てたってことだな」

「……うるさい」

だから僕は今日も

片想いの相手を

『お父さん』と呼ぶ

《終》

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0855p/>

【片翼の想い】

2010年11月23日11時36分発行